

2 フラメンコの語源

フラメンコという言葉

フラメンコは、なぜ「フラメンコ」というのでしょうか？

諸説あります。最も有力なのは、アラブ語由来では、という説です。

放浪の農民

放浪の農民、という意味のアラブ語「フェラー・メングース」という言葉が訛ってフラメンコ、と呼ばれるようになった、というのは、ブラス・インファンテがその著書『フラメンコなるものの起源』で語っている説です。

アンダルシアは8世紀からおよそ500年の長きにわたりアラブにより支配されていました。13世紀にはキリスト教徒による国土回復運動レコンキスタが進み、最後の砦だったグラナダも1492年に陥落しました。ですが、多くのアラブ人は改宗するなどしてアンダルシアにとどまりました。彼らも、ヒターノたち同様、何度も追放令を受けるなど迫害を受けています。スペインから追放されないようにヒターノたちの真似をしたという説もあります。

また、実際に社会のアウトサイダー

同士、ヒターノたちとの関わりも多かったようです。また、流浪の民ともよばれるヒターノたちのことをフェラー・メングースとよんだのかもしれませんが。フラメンコの成立にはヒターノたちの存在が欠かせません。なので、この説がもっとも信憑性が高く、ほぼ定説と言っていいかもしれません。

フランドル

もうひとつ、ヒターノたちとの関係からの説があります。

フラメンコというスペイン語がフランドル地方の、フランドル地方の人をさすということをご存知でしょうか。

フランドル地方は、オランダ、ベルギー、フランスにまたがる地域なのですが、このフランドル地方の出身者やその地ゆかりのもの、この地域で話されているフラマン語もスペイン語ではフラメンコとよべれます。そしてこの地域ゆかりのナイフもまたフラメンコなのです。フランドル地方は、16世紀から17世紀にかけてスペイン領だったということもあり、スペイン人には馴染みのある地名になります。

また、ボスやフリューゲルなど、フ

ランドル地方で活躍した画家たちによって発展した絵画をフランドル絵画とよぶので、グーグルのアラートにflamencoで設定していると、絵画についてや、ベルギーの政治の話題などが引っかかってきたりもします

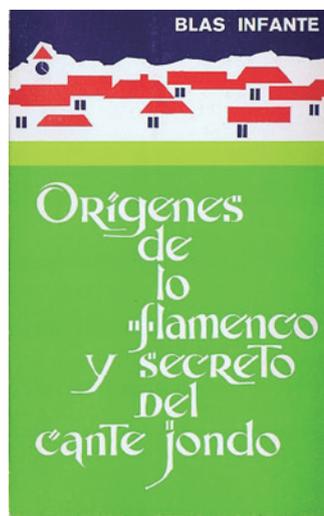
フランドル地方の出身者たちの無頼や派手さをヒターノたちのそれと照らし合わせて、ヒターノたちをフラメンコと呼んだという説があるのです。前述のデモフィロも、ヒターノたちのことをフラメンコと呼ぶのは「嫌われ者で行儀の悪いフランドル人にヒターノたちを重ね合わせたから」だと言います。

また、ヒターノたちがナイフを持ち歩くことや、フランドル地方ゆかりのナイフをフラメンコと読んだことから、長じてヒターノたちをフラメンコとよぶようになったという説もあります。

変わったところでは、16世紀カルロス5世の宮廷の歌手が皆フランドル出身者だったことから、歌い手のことをフラメンコとよび、それが長じてフラメンコ歌手のこともフラメンコとよんだという説や、フランドルの戦にヒターノたちが参戦したからだという説もあります。

炎

スペイン語で炎という意味の言葉フラマflamaから来たというの、聞いたことがある人が多いのではないでし



フラメンコの本『フラメンコなるものの起源とカンテ・ホンドの秘密』。アンダルシア主義の先駆者で内戦中に銃殺されたブラス・インファンテはアンダルシアの父とよばれ、州歌は彼の作詞です。



フラメンコの本棚 私のフラメンコの本棚の一部。愛読書や日本語の本は他の棚にあります。増え続けるのが悩みの種。



Archivo de Fundación Antonio Gades

アントニオ・ガデスとクリスティーナ・オコス
ガデスきっかけでフラメンコにはまった人、周りにもいるのでは？ 美しい形と細部まで計算し尽くされた名作はフラメンコの歴史にだけでなく、観る人の心にいつまでも残ります。

ようか。炎のように。熱く激しい。フラメンコといえば情熱、という言葉がすぐに思い浮かべる私たち日本人には一番馴染みがある、分かりやすい説かもしれません。

フラミンゴ

フラミンゴのこともスペイン語ではフラメンコとよびます。フラメンコたちの派手な格好がフラミンゴに例えられたから、という説もあります。ロドリゲス・マリンによれば、歌手たちが丈の短い上着を着て歌う姿をフラミンゴに例えたというのですが、どうでしょうか。ただ、フラミンゴは餌が欲しい時、サバテアードのように足をバタバタさせるそうなので、全くの間違ひとは言えないかもしれません。

また、名前が一緒ということで、スペインのフラメンコのイベントのポスターなどに、フラミンゴがマスコットのように使われることも、コルドバの

フラメンコの白夜など、に見られるように珍しくありませんし、フラミンゴ柄の小物を愛用するフラメンコ・アーティストたちも少なくありません。

いかがでしょうか。納得できる説があったのでしょうか。

フラメンコも、ほかの、民衆の中から生まれてきた文化と同様、謎に包まれている部分がたくさんあります。そんな謎に包まれているところも魅力だったりするわけです。

実際、私もフラメンコの謎にはまってしまった一人です。

最初は、アントニオ・ガデス舞踊団の公演のフィナーレでのプレリアでした。普通のコンサートだったら最後は全員で手拍子も可能。なのにこれはいったいどういうこと？ 超スピードで叩かれる激しい手拍子はいったい何なの？という疑問からフラメンコにはまってしまったのです。

フラメンコと出会って1年余りでスペイン留学。3ヶ月語学学校に通った後はフラメンコを観る、聴く、知ることによって人生を費やしてきました。フラメンコのおかげでたくさんの人に出会って、体が震えるほどの感動や喜びを、数え切れない楽しい瞬間を経験できました。だからこそ言いたいのです。フラメンコは知れば知るほど面白いよ、と。



87年冬のしかぜ
渡西間もなくセビージャのペーニャで会長とチャノ・ロバートと一緒に。体重今より20キロ以上少なかった。

志風恭子／1987年よりスペイン在住。
セビージャ大学フラメンコ学博士課程前期終了。パセオ通信員、通訳コーディネーターとして活躍。パコ・デ・ルシアをはじめ、多くのフラメンコ公演に携わる。